

<今日の聖書から>

村上定幸

【恐怖の母子室】今週も来週も、子どもが描かれています。子どもは大切にしなければならないとか、子どもなりに等というような書き方ではありません。今朝の御言葉においては“私の名のゆえに受け入れる(9:37)”という言い方で、“肯定されるべき”更には“模範を示しているような者”として描かれています。旧約聖書にも同じことが記されています。申命記6:7をはじめ随所で“努めてこれをあなたの子らに教え”のように、一番素朴に主を受け入れることのできる存在であることを教えているのです。しかし私たちの歴史は、母子室、草薙教会では“分級室”と呼ばれていましたが、子どもたちを礼拝に出席させないことに、力を注いだことがありました。その両親は、子どもたちを教会には連れて来るのですが、“邪魔になる”ということで、分級室で、しかもその両親が教える。結局、礼拝とは関われない時間を、壁を隔てて過ごしてしまったという訳です。

【優秀な大人】“信仰深く、御言葉に十分な取扱いを受けるためにやって来た、物分りの良い大人の邪魔になる”というのが、このような状況を作り出してしまった根拠のようですが、“信仰深い大人”という言葉が、思い浮かべられた瞬間に、幼子の排除が始まり、大人と大人の間にも“どちらが偉いか(9:34)”という論争が始まってしまうのです。うるさければ、ふだん私たちがするように“静かに聞きなさい”と言えば良いことなのです。このことについては“幼児洗礼の重要なこと”について学んだときに、すでに確認したと思います。

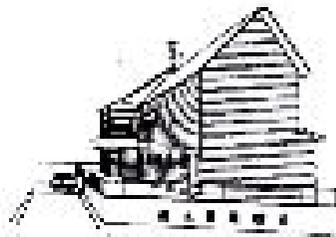
【幼子の信仰】“幼子のよう”と主が仰る時、どの点について“幼子のよう”なのでしょう。うるさいことにおいてでしょうか、違います。全幅の信頼ということにおいてでしょう。幼子は勝手なことをするようですが、父母のもとに帰ることを知っているのです。父母は完全で無限の力を持った保護者なのです。この点において、信仰者が幼子のようであるということを書いておられるのです。やがて大人になり、親は全能でも何でもないということに気がしますが、別の神(偶像)に向き合った時、偉くなるために努力した人は自らを“一番あと”にしてしまいます(9:35)。

【私たちは敵の中】“偽者”とクリスチャンはすぐに言うようです。信じない人を敵と思うことを好むようですが、実は、私たちの教会は、信じない、無関心な“信教の自由”の中で働いてきたのです。9:38に記されている“主の名を使う者”なら結婚式場にいます。これを伝道と称しているのです。聞く人たちは、何の福音にも触れようとしません。

【偉い】具体的に弟子たちはどんな、無益な論争をしたのでしょうか。

週報

2010年 8月 1日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042